

『ダレカ』をさがす冒険

ぼうけん

あかはね
赤羽じゅんこ



「息吹^{いぶき}、まだ、決めてないの？」

図書室にいくと、同じクラスの図書委員の堀越^{ほりこし}あかねがまっていた。それも目を
つりあげたこわい顔で。

「だって、わかんねーもん。好きな本の紹介^{しょうかい}なんてさ。堀越^{ほりこし}は本、好きだろ？ お
れのも書いてくれよ。たのむ」

手をあわせておがむポーズ。これでスルーできるときもある。

しかし、堀越^{ほりこし}はますます目をつりあげ、声もとがらせた。

「やだ。自分のことは自分でやってよ。あと息吹^{いぶき}だけなんだよ」

「うそー。みんな決めたの」

「うん。ほとんどその日に決めちゃった」

「みんな、本、好きなんだな」

「図書委員だもの、そうよ」

一

「へーっ」

おれみたいに本は読まないけど、しかたなくなつたつてのは、ほかにはいないらしい。

おれが図書委員になつたのは、しかえしをされたからだ。

委員決めるとき、おれは山根有樹やまね ゆうきを学級委員にすいせんした。山根やまねは勉強べんきょうばつかりのまじめなやつ。黒くて大きなめがねがトレードマークで、マンガの主人公しゅじんこうに似ているからと、コナンなんてよばれている。

一学期、同じ班はんのとき、宿題をうつさせてついたら、マジで怒おこつてきた。ゆうずうがきかないつていうか、ノリが悪いつていうか、おれとは話があわない。でも、なぜか大人うけはいいんだ。おれのかあさんは口ぐせのように、「山根やまねくんを見習みならいなさい」というから、ちよつとむかつく。

山根やまねは学級委員になるのをいやがつていた。人の前まへに出るのがにがてだからと。えんりよというより、本気でいやなようだった。

でも、話し合いを早く終わらせたいおれは、手をあげていったんだ。

「学級委員になつて、にがてなことに挑戦ちようせんするのもいいと思います」

それがなぜか、バカうけ。「そのとおり」と拍手はくしゅするやつもいて、山根やまねはみごと選ばれた。

おれは給食委員きゅうしょくいんかなにか、楽たのしみなものをやるつもりでいた。

けど、今度は山根やまねがおれを図書委員とくしょいんにすいせんしたんだ。

「にがてなことに挑戦ちようせんするのがいいつていうなら、長尾息ながおいき吹くんが図書委員になるのがいいと思います。でなきや、ほくも学級委員、やりません」と。

いっしょの班はんだった山根やまねは、おれが本を読まないことを、よく知つていた。

おとなしいやつがたまにいう言葉つて、力をもつ。クラスのひとつが「そうだ、そうだ」と賛成さんせいし、おれは図書委員になつちまった。

図書委員は予想よそした以上に、仕事しごとがいっぱいあった。

やぶれたり、よごれた本を見つけること。

返却へんきやくされていない本を、さいそくすること。

あと本の整理だ。みんなかつてなところに本を置くので、もとにもどさないとい